第25回 少年の主張 鏡石町大会

8月4日㈮、第一小学校あやめホールで第25回少年の主張鏡石町大会が開かれ、小学生4人、中学生3人が出場し、小学生の部は小野由奈さん（鏡石二小6年）、中学生の部は稲田サヤカさん（鏡石中3年）が最優秀賞を受賞しました。また、折笠琴音さん（鏡石二小5年）、斑目唯生さん（鏡石中2年）が優秀賞を受賞しました。中学校の部に出場した3人は、県大会に推薦されます。最優秀賞の2人の作品を紹介します。

「男女平等を実現した世界を目指して」

鏡石二小6年　小野　由奈

みなさんは、「男女差別」について考えたことはありますか。男女差別とは、性別を理由に排除や制限などの不利益を不当に及ぼすことを言います。私は女性だから、男性だから、といった理由で相手を判断することはよくないと思います。

例えば、「家事は女性がしないといけない。」「男性は仕事をして、家を守らなければいけない。」といった考え方が昔はありましたが、どちらも単なる偏見にすぎません。今では、仕事で活躍する女性や、育休を取得して子育てにはげむ男性もたくさんいます。

このように、性別だけで判断するのではなく、一人の個人として見ていけば、考え方も変わると思います。そして、「男女差別」をなくすことができるよう、改めてこの問題に向き合っていきたいと考えました。

では、そもそもなぜ、男女差別が生まれてしまったのでしょうか。

それは、性別に対する偏見と無理解からです。実際、「女性よりも男性のほうが優遇されている。」「女性は力仕事に向いていない。」と考える人も少なくありません。

私自身も、学校などで男女の違いによる問題を感じたことがあります。例えば、「男子だから仲間。」「女子はそっち行って。」という会話を聞いたことがあります。こういう会話を聞いて、とても嫌な気持ちになりました。

言っている本人は差別している意識はなく、ただ言ったつもりかもしれませんが、言われた人は心にずっと残ります。

また、女子にだけ優しくして、男子にはあまり優しくしないなど、その人の意識が態度にも表れることがあります。こうした差別を受けて学校に行けなくなってしまった人もいます。ただ、その言葉や態度が相手の気持ちを大きく変えてしまうのです。

このようなニュースを見たことがあります。それは学校での男女差別を受けて自ら命を失ってしまった子がいる、というニュースです。命を失ってしまったら、もう戻ることはできません。「ふざけてからかっただけ」では済まないのです。差別により相手の人生を大きく変えてしまうことがあるのに、そんなことをしてよいのでしょうか。私はこのニュースを見て、差別は絶対になくさなくてはいけないと思いました。

男女差別をなくすために、社会では、雇用条件や待遇等の見直し、不当な扱いを受けてきた女性の立場の向上、女性が働きやすい制度を整える、などの取り組みが実施されています。

また、ファッションに関しても見直しされているところがあります。女性が多く好む服を男性が着たり、男性が多く好む服を女性が着たりする場面が少しずつみられるようになってきました。「自分の好きな服を自由に着る」「ありのままの自分でいる」という、一人一人を個人として尊重し、「多様性」を大切にする思いが一人一人に芽生えれば、世界はもっと明るくなるはずです。私自身も、「男だから」「女だから」という意識をなくし、相手の気持ちを考えて発言や行動をすることが大切だと改めて実感できました。

男女差別をすることは悪いことだと分かっていても、なぜ差別してはいけないのかが意外と分かっていない人も少なくないと思います。男女平等の意識を持って暮らしていけば、みんながもっと幸せに明るく過ごせると思います。私たち一つ一つの行動や発言、考え方が世界を明るくする一つの方法でもあるのです。「男女差別なんて自分には関係ない。」と思う人もいるかもしれませんが、自分の知らないところで人を傷つけてしまっていることがあるかもしれません。

そのため、自分の考え方や発言を見直してみるのもいいと思います。

私は、差別をなくし、男女平等を実現するために、改めて男女差別と向き合い、一人一人を大切にしていきたいと思います。

「マナーと道徳」

鏡石中3年　稲田　サヤカ

最近、公共の場所でのマナーや、人に対する態度が悪い人が多くなっていると思う。それは、自分のやっていることの善悪がよく分かっていないからだろう。

私は、四月に東京方面へ修学旅行に行ってきた。東京や横浜など都会だったこともあり、人がたくさんいた。歩いて観光をしていると、通行人がぶつかってきたのだ。私はとっさに「すみません。」と謝ったが、返ってきたのは、「チッ。」という舌打ちだけだった。私はとても悲しく、そして悔しい気持ちになった。

私は何事にも、「態度」は、自分を表現する重要な行動なのだと思った。私とぶつかったその人は、いつでも、誰に対しても、そのような態度で接しているのではないかと考えてしまった。もちろんそういう訳ではないだろう。でも、態度で、あるいは言葉で印象を悪くしてしまっては、勘違いされるのも無理はないだろう。

そして、もう一つの、公共の場所でのマナーについてだが、こちらも実体験を話したいと思う。

私は時々、近隣の街などに行くことがある。例えば、駅前周辺やショッピングセンターなどに行くことが多い。その日も遊びに行った。ショッピングセンターを普通に歩いていると、どこかの高校生と思わしき人たちが、店内を歩き回り騒いでいた。周りの人たちは、その高校生をチラチラと見ており、迷惑に思っているようだった。ある人が注意をしたが、その学生たちは「すみませーん。」とニヤニヤと笑いながら謝っていた。そしてブツブツと何かを言い、注意した人を見ながら外へ出て行った。

もちろん謝ることは大切だ。だが、謝る時の態度や謝った後の行動が反省の意を表していなければ意味は無いと思う。そして、注意されたことに文句を言うのであれば、そもそも最初から、注意されるような行動をしなければいいと思う。

この二つの体験を基に、人の気持ちを害さない、また、迷惑にならないようにするための改善方法を考えてみた。一つ目は、人に対する態度についてだ。これは、もしも自分がその態度をとられたら、どのような気持ちになるかを考えることで改善できると思う。最も一般的な方法だと思うが、結局はこの方法がいちばんだと私は思う。二つ目は公共の場所でのマナーについてであるが、これはとても難しいことだと思う。公共の場所で騒がしくしてしまう人は、注意されても何とも思わない人が多いと思う。そのような人には注意しても意味がないかもしれない。だから、注意するよりも周りにいる人が、自分の気持ちを伝えればいいのではないだろうか。

例えとしては、「騒がないでよ。」と直接言うのではなく、「すみませんが、少し声が響きますので、静かにしてもらえますか？。」と問いかけるように言うことだ。注意の言葉だけであると、相手が反抗的、反発的な気分になり、きちんと聞いてくれないかもしれない。

だから自分が思っていること、感じていることなどを言葉に表して伝えれば、相手も理解してくれるだろう。

私は、公共の場所でのマナーや態度には深いつながりがあると思う。マナーが悪いと態度も悪くなり、周りの迷惑もになってしまう。そうならないためにも、人の気持ちを考えて、行動することが大切だと思う。そして、自分もまわりの人も笑顔になれる世界になることを、私は祈る。

第25回少年の主張鏡石町大会に出場した皆さん